

減災力の強いまちづくり

シリーズ②②

小型ポンプ軽積載車を

4台更新しました。2月23日(日)

市では火災や災害時に備え、小型ポンプ軽積載車を4台更新し、地域防災力の中核を担う消防団に配備しました。

消防車両引渡式では、渡辺市長から小林消防団長へ車両が引き渡され、高根分団と小淵沢分団にそれぞれ2台ずつ配備されました。

今後も、計画に従って更新を行っていきます。

～自らの命は自ら守る～



消防防災課 TEL 42-1323 FAX 42-1122



地域とともに

仕事紹介編

げんご ちょうかくし 言語聴覚士について紹介します

塩川病院で働く言語聴覚士から話を伺いました。

塩川病院ではどこで働いていますか

リハビリテーション科で、理学療法、作業療法、言語療法の3つの専門領域の一つとして、同じリハビリ室で連携しながら働いています。

言語聴覚士とは、どのような仕事ですか

「言葉で伝えられない」「発音が気になる」「聴こえにくい」「言葉の発達や話し方が気になる」などの言語や聞こえの障がい、「食べ物をうまく飲み込むことができない」などの嚥下に障がいがある方を対象に、よりよい自分らしい生活を送ることができるよう支援を行う仕事です。塩川病院では、主に入院中の方に対して、退院後の生活目標に向けた訓練を行っています。ご家族に対しても、ご本人との関わり方などを助言しています。

訓練はどのように進めていきますか

障がいの程度や困っている部分はさまざまです。どの部分が難しいのかを検査した上で、その方の生活での課題に合わせた個別の訓練を行います。例えば、失語症でうまく伝えられない方には、言葉の理解がどの程度できているかの検査も一緒に行います。リハビリでは、絵や文字のカードなどを使い理解力を強化するとともに、言葉がスムーズに話せるよう支援します。

顔や口の麻痺で、発音が難しい方には、唇、舌、喉がどのように動かないのかや、苦手な音を調べて、口の動かし方や発音の練習をしていきます。

脳梗塞や、認知機能、口や喉の筋力の低下でうまく飲み込めない方には、まず実際の食事中に飲み込みの確認をします。口や喉の動きやむせの様子その他、姿勢や食べるペース、適切な量が口に運んでいるかなどをみて、それを基に食べるために必要な訓練の内容を決めます。また医師や管理栄養士などと相談しながら、食事の内容や形態を調整しています。介助にあたる看護師や介護士にむせにくい方法など、アドバイスをして連携をとっています。

働く中でのやりがいや心がけていることを教えてください

何も飲み込むことができなかった患者さんが、少しでも食べることができて、「美味しかった」と言ってもらえることが嬉しいです。食べることができるようになると、意識がはっきりしてきたり、元気になり話すことができるようになることもあります。

話すことが難しい患者さんと接することが多いので、コミュニケーションをとる中では、何か伝えたいことがあるのではないかと思いを汲み取ることができるようにと心がけています。

健康増進課 TEL 42-1335 FAX 42-1125

